

**製品名: SPTLC1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab18230**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	52kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SPTLC1
別名	SPTLC1; LCB1; Serine palmitoyltransferase 1; Long chain base biosynthesis protein 1; LCB 1; Serine-palmitoyl-CoA transferase 1; SPT 1; SPT1
遺伝子 ID	10558.0
SwissProt ID	O15269
免疫原	SPTLC1 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 411-460

**背景**

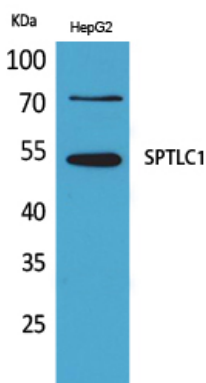
この遺伝子は、クラス II ピリドキサルリン酸依存性アミノトランスフェラーゼファミリーのメンバーをコードしています。コード

されるタンパク質は、セリンパルミトイルトランスフェラーゼの長鎖塩基サブユニット 1 です。セリンパルミトイルトランスフェラーゼは、L-セリンとパルミトイル CoA をピリドキサル 5'-リン酸と反応させて 3-オキソスフィンガニンに変換し、スフィンゴ脂質合成における重要な酵素です。この遺伝子の変異は、遺伝性感覚神経障害 1 型患者で同定されています。また、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシングバリエーションも同定されています。この遺伝子の疑似遺伝子は、1 番染色体、6 番染色体、10 番染色体、および 13 番染色体上に定義されています。[RefSeq 提供、2013 年 7 月]、触媒活性: パルミトイル CoA + L-セリン = CoA + 3-デヒドロ-D-スフィンガニン + CO(2)、補因子: ピリドキサルリン酸、疾患: SPTLC1 の欠陥は、遺伝性感覚・自律神経性ニューロパチー 1 型 (HSAN1) [MIM:162400]の原因です。遺伝性感覚・自律神経性ニューロパチーは、遺伝的および臨床的に異なる疾患群であり、背根および自律神経節細胞の変性、および感覚および/または自律神経異常を特徴とします。HSAN1 は、10 代または 20 代に発症する常染色体優性軸索ニューロパチーです。初期症状は、足の痛覚、触覚、温冷覚の消失であり、続いて遠位筋の萎縮と筋力低下が起こります。痛覚の消失は慢性皮膚潰瘍や遠位切断につながります。経路: 脂質代謝; スフィンゴ脂質代謝。類似性: クラス II ピリドキサルリン酸依存性アミノトランスフェラーゼファミリーに属する。サブユニット: SPTLC1、SPTLC2、および SPTLC3 は、この酵素のサブユニットをコードする可能性がある。組織特異性: 広く発現している。小腸では検出されない。

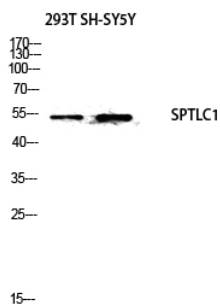
## 研究分野

スフィンゴ脂質代謝;

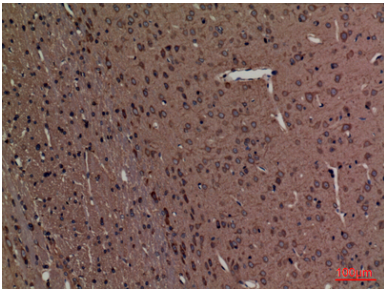
## 画像データ



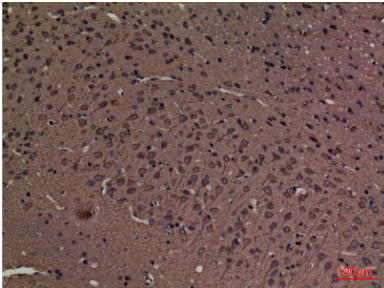
SPTLC1 ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈した。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



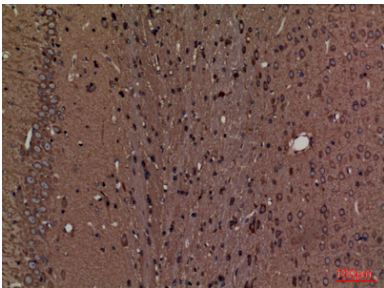
SPTLC1 抗体を用いた 293T SH-SY5Y の溶解のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈した。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



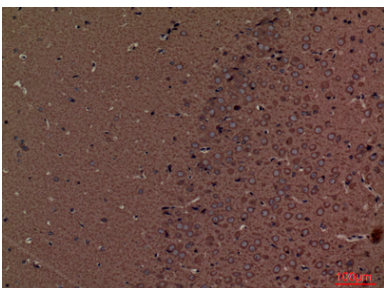
パラフィン包埋ラット脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ラット脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ラット脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された